

25周年記念事業－国際陶芸ワークショップ・シンポジウム アーティスト・イン・レジデンスを視点として 「信楽から世界を見る 世界から信楽を見る」開催報告

このワークショップでは、過去に陶芸の森にアーティスト・イン・レジデンスで滞在しており、その後の活動に実績がある作家 7 名を同時期に招へいし、陶芸の森で1ヶ月に渡り制作を行った。完成した作品については、陶芸の森のギャラリーで展示もおこなう他、アーティスト・トークを9月11日、12日に開催し、制作者の立場で自らの国の現代陶芸を巡る状況について話してもらい、若手陶芸家や参加者間での相互理解を深める。

このワークショップ、アーティスト・トークと併せて、世界各国のアーティスト・イン・レジデンス事業実施機関等が集うシンポジウムを開催した。

このシンポジウムでは、アーティスト・イン・レジデンス機関関係者とそこに滞在した日本人陶芸家の双方向のレポートを聞くことで各国のレジデンスの現況を把握することをおして、陶芸をテーマとする各地のレジデンスのグローバルなネットワーク化を進めた。

具体的には、陶芸の森のレジデンスの受入ですでに実績のあるアトリエ・ダール（フランス）や台南芸術大学（台湾）。また、陶芸の森のレジデンスを通して陶芸家の行き来のあるアーチャー・ブレイ・ファウンデーション（アメリカ）や、ヨーロッパ陶芸ワークセンター EKWC（オランダ）との間で陶芸家の受入、派遣に関する連携の強化を図るきっかけとすることができた。また、国際的な陶芸家の団体である国際陶芸アカデミーや、アメリカンクラフト・カウンシルの関係者から各団体のレジデンス事業支援に関する考え方を聞くことができた。

今回のワークショップ、シンポジウムの開催を機に海外に日本人の陶芸家を派遣するシステムの構築など、具体的なネットワークづくりを進めることにより、陶芸の森は、歴史ある日本の文化の一つである陶芸をテーマに海外との交流、日本からの発信をさらに充実させることができ、その結果、陶芸の森が陶芸をテーマとしたレジデンスのハブ機能を持つ拠点機関としての役割を果たすことが可能となると考える。

1. 開催日程

ワークショップ：平成 27 年(2015 年)8 月中旬～9 月中旬

シンポジウム：平成 27 年(2015 年)9 月 9 日、10 日の 2 日間

アーティスト・トーク：平成 27 年(2015 年)9 月 11 日

町内見学「信楽タイムトラベル」：平成 27 年(2015 年)9 月 12 日

2. 開催場所

ワークショップ：滋賀県立陶芸の森 創作研修館第2スタジオ

シンポジウム及びアーティスト・トーク：

滋賀県立陶芸の森 甲賀市立信楽産業展示館ホール

作品展示：滋賀県立陶芸の森内ギャラリー

3. 主催等

主催：公益財団法人 滋賀県陶芸の森

後援：滋賀県、甲賀市、IAC 国際陶芸アカデミー、公益社団法人日本陶磁協会、

東洋陶磁学会、信楽陶器工業協同組合、信楽陶器卸商業協同組合、

甲賀市商工会、信楽陶芸作家協会、

助成：文化庁「平成27年度 文化庁 文化芸術の海外発信拠点形成事業」

吉野石膏美術振興財団

4. 参加者

陶芸関係者等 165 人

4..招へい者：海外から陶芸家、レジデンス関係者等 16 人

国内在住の陶芸家、評論家 9 人

計 25 人

5. シンポジウム スケジュール

9月9日(水)

●第1部 アーティスト・イン・レジデンスを視点として「信楽から世界を見る 世界から信楽を見る」

13:30-13:50 基調講演「交配の美学-陶芸におけるレジデンス-伝統と最新技術、ローカルとインターナショナル」ジャック・カウフマン、陶芸家、国際陶芸アカデミー会長"

・14:00-15:25 トークセッション1 「異文化環境下でやきものをつくることの魅力」

14:00-14:15 「一つの国が崩壊して7つの国になり、そしてアーティスト・イン・レジデンスが始まった」林香君（陶芸家、文星芸術大学教授）"

14:15-14:30 「この一年間に訪れたレジデンスについて」

植田麻由（陶芸家、2015年スタジオ・アーティスト）

14:30-15:00 「国立藝術台南大学について」

張清淵（陶芸家、台湾国立台南芸術大学教授・台湾）×

小島修（陶芸家、1995年スタジオ・アーティスト）"

15:00-15:15 「金貨には裏と表があるー 張凌云の海外レジデンス体験」

張凌云（チャン・リンユン）（陶芸家、景德鎮陶磁大学校準

教授・中華人民共和国)

- 15 : 15-15 : 25 質疑応答
- 15 : 25-15 : 35 休 憩
- ・ 15 : 25-18 : 00 トークセッション2「レジデンス事業の現状と未来への展望、ネットワーク」
- 15 : 35-15 : 50 「アーチャー・ブレイ・ファウンデーションーモンタナの陶芸遺産」
ジョシュ・デ・ウィード (陶芸家、モンタナ州立大学ボーズ
マン校美術部陶芸科準教授・アメリカ)
- 15 : 50-16 : 05 「Sundaymorning@ekwc・ヨーロピアンセラミックワークセンター
について」ラン ティ・チャン (ヨーロッパ陶芸ワークセンター
EKWC ディレクター、オランダ)
- 16 : 05-16 : 20 「クレーアーチ金海美術館の陶芸創作センター」ギム・スンテク
(クレーアーチ金海美術館、陶芸創作センター学芸員、大韓民国)
- 16 : 20-16 : 35 「韓国アート・イン・レジデンシーの現況と未来のための提言」禹寛
壕 (陶芸家、弘益大学校美術大学陶芸ガラス学科教授、大韓民国)
- 16 : 35-16 : 45 質疑応答
- 16 : 45-17 : 00 休 憩
- 17 : 00-17 : 15 「アメリカで参加可能なレジデンシーとワークショップ」ステュア
ート・ケステンバーム (アメリカ・クラフト・カウンシル ディレク
ター、アメリカ)
- 17 : 15-17 : 30 「アトリエ ダール ド フランス」ヴァリー・フォルム (陶芸家 (磁
器絵付け)、アトリエ ダール ド フランス事務局長、フランス)
- 17 : 45-18 : 30 質疑応答
- 18 : 45-21 : 00 レセプション (創作研修館スタジオ及び裏庭)
- 18:45-18 : 50 あいさつ : 公益財団法人滋賀県陶芸の森理事長 川口雄司
- 18 : 50-18 : 55 あいさつ : I A C 会長 ジャック・カウフマン
- 18 : 55-19 : 00 あいさつ : 滋賀県商工観光労働部長 福永忠克
- 18 : 55-19 : 00 乾杯の音頭 : 秀明文化財団専務理事 石丸正運
- 19 : 00-20 : 50 懇 談
- 20 : 50-21 : 00 あいさつ : 信楽陶芸作家協会会長 神埼継春

9月10日(木)

●シンポジウム第2部「信楽から やきものの可能性を考える」

- 10 : 00-11 : 40 柳原睦夫 (陶芸家、大阪芸術大学名誉教授) × 外館和子 (工芸評
論家)
- 11 : 40-12 : 00 質疑応答
- 12 : 00-13 : 00 休 憩

・ 13 : 00-15 : 00 トークセッション3 「土の可能性－陶芸家の場合、美術家にとって土とは」

- ・ イケムラ・レイコ（現代美術家、ベルリン芸術大学教授、ドイツ在住）
- ・ 三輪和彦（陶芸家）
- ・ 「陶芸における作品の大型化」 ウーラ・リスラルード（陶芸家、オスロ芸術大学名誉教授、ノルウェー）

・ 15 : 00-15 : 15 休憩

- ・ 神農巖(陶芸家、日本工芸会正会員)
- ・ 「竜泉窯の歴史、伝統と現代性」周武（陶芸家、中国美術学院教授、公共芸術学院副院長、中華人民共和国）

9月11日（金）

●ワークショップ関連アーティスト・トーク

10 : 00-12 : 00 モーテン・ロブナー・エスパーセン（陶芸家、デンマーク）

林美岡（陶芸家、国立忠南大学助教授、IAC 会員、大韓民国）

11 : 40-12 : 00 質疑応答

12 : 00-13 : 00 休 憩

13 : 00-16 : 00 ビクトル・マヌエル・ラミレス（陶芸家、ペルー） & 清水匡子（陶芸家、ペルー在住）

ジョシュ・デ・ウィード（陶芸家、アーチャー・ブレイ・ファウンデーション前ディレクター、アメリカ）

森野彰人（陶芸家、京都市立芸術大学専任講師）

山村幸則（現代美術家）

9月12日（土）

10 : 00-12 : 00 町内見学「信楽タイムトラベル」山村幸則（現代美術家）